Ｎｏ．２７０【２０１７年８月１８日配信】
展示図書『それでも日本人は「戦争」を選んだ』（担当：鈴木）

こんにちは！嘱託員の鈴木です。お盆も過ぎ、そろそろ秋の気配を感じますね。

今夏の企画展示「戦時中の出版物」、ご覧いただけましたでしょうか？ 市民図書館歴史資料室が開設して２年５か月、歴史資料室の展示もこれで９回目となりました。

館内の一画での展示ですが、毎回みんなで頭を悩ませ、季節や行事に合わせてテーマを選んでいます。また、資料をどういった方法で展示するか、季節感をどう演出するかなどスタッフ手づくりであれこれ工夫し、楽しんで見ていただけるよう心がけています。

企画展示「戦時中の出版物」のようす
（7 階エントランスロビー）

さらにもうひとつ、展示ケースの資料と解説パネルのほかに、8 階展示の横にテーマに関連した図書も展示しています。

今回、その中の 1 冊を私も読んでみました。加藤陽子著『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（2009 年　朝日出版社）という本です。これは平成 22 年（2010）に小林秀夫賞を受賞した本で、昨夏に文庫化もされています。7 月 26 日の『東奥日報』でも紹介されましたね。ややボリュームのある本ですが、東京大学教授で日本近現代史が専門の加藤陽子氏が、栄光学園（神奈川県）の歴史研究会所属の中高校生たちに講義した内容を本にしたもので、対話形式で書かれており、読みやすい文章になっています。

「戦争をしてはいけない」という命題は誰もが信じるところです。では、そのためにはどうすればいいのか。正解を知っている人は誰もいないのではないでしょうか。

歴史のターニングポイントで日本はどうすればよかったのか。考え方は人により様々ですが、まずはその時に世界で何が起きていたのかを知ることが大切なのではと思います。日本の明治時代以降の世界情勢を、俯瞰した視点から説いたこの本は、学校の授業で習ったあの事件はそういったことが関わっていたのか！と教えてくれます。

今回は、ほかに青森空襲や平和に関する本はもちろん、それ以外にも、戦時中に書かれた小説、当時の広告や標語を集めた本、暮らしや料理に関する本、また報道・地図・紙芝居などが戦争でどう変わっていったのかなど、戦争をいろいろな角度から捉えた本を並べています。これらは図書館の貸出し可能な図書の中からスタッフがそれぞれ選びました。「へ～！こんな本があったんだ」と思っていただけたら嬉しいです。また、今回はスタッフのおすすめ本を紹介するポップも作ってみましたので、ぜひ本選びの参考にしてくださいね。

企画展示「戦時中の出版物」のようす
（8 階パネル展示）